

日本における最初の私立幼稚園とその背景 (2)

——近藤はま(浜)と近藤幼稚園 (その二)——

小林 恵子

日本で最初の私立幼稚園は明治十二年、芝で近藤はまが創立した近藤幼稚園であるという石井研堂の説に対し、これは間違いであろうということを前回で述べた。

それでは近藤幼稚園は実際にあつたのだろうか。今回は近藤が東京女子師範学校を辞職した明治十四年以降の足跡をたどりながら近藤に係のある幼稚園および保姆養成所について詳しく考察してみたい。

東京都公文書館に明治十六年六月三〇日付で五人連名の共立幼稚園開業願が残っている。^(註1)この五人とは松平忠

恕、二階堂行正、東儀季芳、大村長衛と近藤で近藤は副幹事として名を連ねている。場所は牛込区市谷薬王寺前町二五の長巖寺で三百年余り続いている寺である。この寺は昔から教育に力を入れていたようである。現在の住職、本多正激^{せいげき}氏の話によると「お早よう会」と称し朝早く子ども達を集め話をしたり歌をうたったりしていたという。明治十六年は祖父(清安)のところで祖父は雅楽人と交わり横笛の奏者だったと云われる。住職で雅楽のできた人はかなりいたようで保育唱歌を作曲した伶人東儀季芳

(五人連名の一人)とも交わりがあったのではないかと考

えられる。明治期は神社と異なり仏寺は経済的に苦しく虐げられた時代で教育や社会事業に場所を提供した寺は少なくなかったようである。五人連名の一人に浄土真宗の専福寺住職、二階堂行正が名を列ねており同じ宗派の長巖寺が使用されたのもこうした横のつながりがあったからであろう。寺が早くから幼稚園とかかわりをもったことが理解される。七月二十六日開園された^{註(2)}とあるが資料はこの寺に残っていない。特筆されるべきことは、その後まもなく四谷区麴町と赤坂氷川町の二ヶ所に分園ができ、それぞれ同じ開業願が提出されたことである。保育科目は東京女子師範とほぼ同じでフレーベルの二十恩物を用い近藤が三つの幼稚園の保育を指導監督したのと思われる。開業願の第九条に「官立幼稚園保姆練習料卒業生ヲ以テ教師トス」とある。保姆練習料が明治十三年七月に廃止されていることを考えると、そのあとはどのように保姆を補充したのか、おそらく最初の保姆は近藤が指導した十一名の卒業生たちの誰かであったと考え

られる。

三つの幼稚園の廃止の年は明らかではない。東京都発行の「東京の幼稚園」の書によると牛込の共立幼稚園はその後場所もあちこち移転し、設立者も変って三十九年ごろまでのことが記されている。しかし、近藤がいつごろまで関係をもっていたのか明らかではない。

以上のように公的な書類でみると近藤が私立幼稚園に関係するのは明治十六年に設立した三園である。しかし、「日本幼稚園史」には、それ以前に幼稚園を始めたらしいことが次のように記されている。「近藤はま女史が明治十四年芝公園で私立幼稚園を始め、後共立幼稚園と称したのが今日まで継続している。ここは外山正一氏その他教育関係者が後援していて当時から本格的のものであったという。^{註(3)}外山正一は当時、東京帝国大学の教授のち総長となり文部大臣となった人である。もし、この説が正しければ、この園は明治十三年四月に創立された桜井女学校付属幼稚園に次ぎ東京では二番目に古い私立幼稚園となるが、これを裏づける資料がみいだせない。

しかし、女子師範付属幼稚園を辞職した明治十四年以降、近藤が芝で幼稚園を開いたという説は考えられることで、これを近藤幼稚園と云い、それが後に芝・麻布共立幼稚園へと発展したのではないかと推測される。

しかし公的な書類によると、芝麻布共立幼稚園の設立は明治十七年十月で、九月三〇日に設置願が提出されている。出願者は富田鉄之助、子安峻、山東直砥の三人でいずれも大物であった。富田は日本銀行の総裁、東京府知事となった人で一橋大学の前身、商法講習所創設者の一人である。子安は読売新聞の創設者の一人で初代社長であり、山東は神奈川県参事をつとめ洋漢学の私塾など教育事業にたずさわっている。これらの三者は幕末維新後、蘭・英学に通じいち早く海外文化に触れた人々で開明推進の事業の一つに幼稚園の誕生を望んだものと考えられる。明治七年十二月十六日の読売新聞に子安は育児論を発表し「親友近藤真琴先生の家へ行き種々の話のうちふと談が塊地利の首府維也納の博覧会のこと（註⁴）に涉り近藤先生が彼地にて見たり聞いたりしたことを摘んで録

しておいたとてその草稿を示されしゆえ開いて見ると小児撫育という……」などと記している。おそらくフレールの幼稚園についてもいち早く目にとめていたに違いない。また「富田鉄之助伝」を読むと彼は米国留学中、聖書を学び宗教にふれるが、当時の日本が西洋の真似ごとにと終りその根底にあるものを理解していないことを指摘している。彼の日記（明治十八・七・三）に「鹿鳴館ニバザーを開キ金員ヲ募集シ私立ノ病院ヲ初メ貧者ヲ賑サントスルノ仁慈ヲ主張スル一二ノ人アリ之レ海外ノ輸入策ナレトモ海外ノ仁慈ハ宗教ノ本心ヨリ起ル所ノモノナルニ基本ヲ極メス単ニ其皮相ノ輸入ナレバ其弊已ニ賄路ノ一具トナリタルアリ」と記し外形の模倣を戒しめている。

以上のことは近藤の主題から離れたようであるが、草創期に私立幼稚園を設立しようとした人々がいかに真剣に日本の将来を考えて幼稚園の設置を望んでいたかが理解されるであろう。そしてこの幼稚園がいかに本格的なものであったかは「東京名所図会」の書に次のように記

されている。「其監督者は文学博士外山正一、パチエラ
ーオフアト神田乃武、ドクトル、オフ、フヒロソフイ
ー元良勇次郎氏なり別に保母三名、保母補三名を置き、
懇篤こんとくに保育し、幼稚なる善男善女をして、うませざる
は、其教育の好しきを証するに足りなん、尚ほ別室に附
添女中控所なるものを設け、其附添人をして、随意裁縫
編物等を為さしむるなど、用意到らざるところなし」と。
註(6)

近藤はこの幼稚園長兼保母として重要な人物であつた。女子師範での経験を生かし、園長としてフレীব
式保育を実践し指導した。園の開園は十月十日、所在地
は芝公園六三号岳蓮社がくれんしゃ内で当時は増上寺のなかにあり三
千〇三九坪の広い敷地を有した。おそらくその一部が使
用されたのであろう。前に述べたように寺が教育事業に
場所を提供していたことがこでも理解される。保育料
は一ヶ月一円で女子師範の附属が二五銭だった事を考え
るとかなり高く入園した園児も中流以上の家庭に限られ
たものと考えられる。こうした私立幼稚園の経営の問題
はいろいろと大変であつたらしく先に述べた富田鉄之助

の明治十八年の日記に「昨日午後幼稚園ニ集会ス議決ハ
保母ノ給料増加ノ事年末賞与金ノコト等ナリ」とある。註(7)

今日と同様、私立幼稚園の経営の問題は苦勞があつたこ
とと察せられる。この幼稚園を東京都立教育研究所発行
(昭和四八)の「東京教育史資料大系(第六卷)」で公立
としてるのは誤りである。この幼稚園がいかに盛況で
あつたかは幼児定員百名では希望者を収容できなかった
ように百五十名と改正し「幼童増員御届」を二一年十
月、近藤が東京府知事あてに提出していることである。
東京女子師範学校附属幼稚園に次いで東京では規模も大
きく評判の高い幼稚園であつたと云えよう。

さて、明治二十一年十月、この芝麻布共立幼稚園内に
東京府教育付属幼稚園保母講習所(私立)が設立されてい
る。私立では十七年に設立された桜井女学校附属幼稚保
育科に次いで二番目にできたもので保母養成機関として
規則その他の形式がよくととのっている。東京府教育会
は、明治十六年、「府下教育ノ改良進歩ヲ図ル」ことを
目的として有志者によつて設立された。そして本会の事

業として保姆講習所を新設することが決議され木寺安教を設立者として設置願が提出されたのである。

この東京府教育会付属幼稚園保姆講習所が現在の竹早教育養成所である。「竹早だより」の創立75周年記念誌に「明治二十一年十月五日・芝公園六号地（現・共立薬科大学所在地）における芝麻布共立幼稚園内で東京府教育会付属保姆講習所として呱呱の声をあげて」とあるが註(8)

（一）は間違いで誕生地は芝公園の岳蓮社内である。この幼稚園が道をへだてて現在の共立薬科大学所在地に移転するのは同二十七年一月で山東直砥から東京府知事に届けがだされている。したがって保姆講習所も幼稚園とともに岳蓮社から現在の共立薬科大学所在地に移転したのである。

ところでこの保姆講習所の設置願に近藤浜が教員として次のような履歴書を提出している。註(9)

履歴書

明治八年十月 東京女子師範学校舎長拜命

同 九年 同校附属幼稚園保姆拜命

同十四年四月 辞職

同十七年七月ヨリ芝麻布共立幼稚園々長仕居候也

明治二十一年九月二五日

芝公園地六十三号

教員 近藤 浜 印

天保十一年二月生

名前の上に教員とあり、東京府教育会付属幼稚園保姆講習所の創立時の教師は幼稚園の園長であった近藤が教員を兼ねていたことが明らかである。しかし竹早教員養成所の沿革を記した「創立75周年記念誌（竹早だより）」や「教員養成九十年」註(10)のどこにも近藤の名前がみいだせないのは何故であろうか。そして田中ふさが「東京では最初の幼稚園長であり」とあるのはあきらかな間違いで、この幼稚園においても最初の園長は近藤で近藤は、この養成所の生みの苦勞をした中心人物であった。設立者として開業届をだした木寺安教は東京府教育会の議員

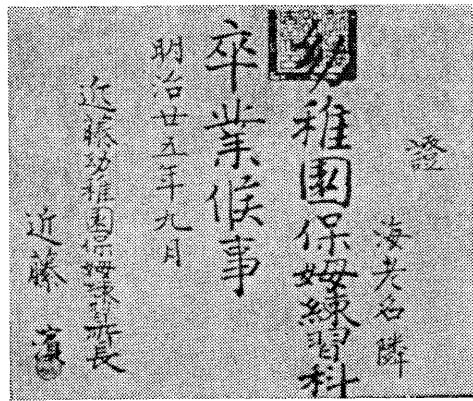
の一人で、この会の事業の一つである幼稚園保姆講習所の初代主幹として活躍した。しかし、日常保育の實際に關しては最も経験のある近藤が中心となつて生徒の指導に當つたものとみて間違いない。創設當時、この養成所は幼稚園の終つたあと「午後二時ヨリ四時迄トス」といふ短い時間で、ここには幼稚園で實際に保育に當つてゐる保姆がかなり入所したようである。「東京都教育會六十年史」に掲載されている講習所の規則（第四條）によると、講習員になる資格の一つに「幼稚園保姆若しくは小学校教員及授業生の職にある者」^{註(9)}とあり、東京府にだした届けと違つて現場の保姆または補助者の教育を兼ねていたことが明らかである。明治二十二年一月にこの講習所の教員となつた田中ふさは次のように記している。

「漸々園の数も多くなつて來ました明治二十一、二年頃には保姆の需要が激増したのであります。然るに丁度その頃にはお茶の水の保姆料が一時廃止されて居りましたので保姆の供給は十分でなかつたのであります。そこで時勢の要求に驅られて生れ出たのが東京府教育會附屬保

姆講習所（後に保姆伝習所と改称）であります。而して同所の創立當時には保姆の需要がはげしく、急成を要しましたので最初の内の講習期間は半ヶ年であります、つまり六ヶ月の急稽古で兎も角も社会の静要に應ずべき保姆を作り上げたのであります」^{註(10)}

以上のことから理解できるように、現場の保姆のため恩物の扱いや手技、遊嬉といった実技の指導を短期間で教えたので、当時の学科課程は開誘法（フレイベルの二十恩物の諸法）遊嬉法、唱歌、実地授業がすべてであった。したがつてフレイベルの幼稚園設立の根本である「人間の教育」の書の教育思想や「母の歌と愛撫の歌」の教育的意図といった原理的な授業がくみこまれておらず外形の実技修得にのみ忙しかつたことが理解される。

さて、近藤と近藤幼稚園のことであるが明治二十二年、近藤は東京府知事あて「幼稚園保姆練習所設置願」を提出している。これは一体、東京府教育會付屬のものかどうかという關係にあつたのだろうか。設置場所は同じ共立幼稚園内であり、このあたりは何か特別な事情があつ



卒業証書

たものと察せられる。「東京の幼稚園」の本に近藤が東京府学務課にあてた自筆の設置願の写真が掲載されている。二度も書簡を送っているところを見ると、よくよくのことがあったに違いない。^{註(6)}なお、参考までに田中房の履歴をみると十八年十月から二十一年十二月まで近藤とともに芝麻布共立幼稚園保母をつとめ、二十二年一月から築地の私立幼稚園長となり、同時に東京府教育会付属

保母講習所教員を嘱託とある。また、二十三年三月芝麻布共立幼稚園長となって近藤浜と入れ代ったものと思われるとあるが、このあたりの事情は明らかでない。とにかく近藤は独自に幼稚園保母練習科を始めようとして東京府教育会付属のものとはほぼ同じ規則や内容で設置願を提出していることがあきらかである。^{註(6)}

近藤が始めた幼稚園保母練習所がいつまで続いたのかあきらかではない。最初は同じ共立幼稚園で始められ、のち芝巴町に移っている。興味ぶかいことは、この保母練習所の名称である。当時の卒業生で若松幼稚園を創立した海老名隣^{えびなりん}の卒業証書を見ると、「近藤幼稚園保母練習所」という名前がみられる。「日本幼児保育史」第一巻に「海老名隣子女史の生い立ち」の記が次のように掲載されている。「明治二十三年四月―中略―幼児教育に対する経験と大きな抱負に燃えて、日本最初の幼稚園創始者、保母練習所長、近藤浜女史について十ヶ月間保育の実際と理論を勉強云々^{註(6)}」これをみても近藤の名前はかなり有名だったように思われる。また明治期の私立幼

稚園を保姆の履歴でみていくと頌栄幼稚園保姆、奈良英は近藤浜の保姆練習所と東京府教育会付属伝習所卒とあり、^{註(9)}また麻布区教育会付属幼稚園保姆、吉住幾久の履歴に二十五年二月付近藤幼稚園長近藤浜の「幼稚園保姆練習全科修了」の証書の写しがそえられ（芝巴町幼稚園保姆練習全科修業）とある。^{註(10)}近藤は巴町に移ったことから別名で芝巴町とも云ったのであろう。様々な呼び方をしたらしい。近藤の名前は、前回に記したように雑誌「婦人と子ども」の第二巻（明治三十四）第四号の会員名簿に載っており、この頃まで続いていたのではなからうか。

「竹早だより」の創立75周年記念誌に後援会長の木下一雄が芝麻布共立幼稚園を「東京ではじめてできた幼稚園」とし竹早教員養成所の「初代主幹は田中ふさ^{註(11)}」と記しておられるのは間違いで、初代主幹は木寺安教で最初の教員は近藤浜である。木下氏の話によると明治三十六年から四十一年、東京府立第一中学校の生徒の頃、同級生の一人に田中ふさの息子がいてよく幼稚園に遊びに行くと云われる。この幼稚園は「芝区誌」に昭和十年現

在で記録があり、^{註(12)}「東京府史」（昭和十二年）に写真が掲載されている。^{註(13)}その頃まで続いたのであろう。

以上のことから考えられるのは近藤幼稚園とは芝麻布共立幼稚園のことであり、十七年の創立より以前に近藤が始めたかも知れないという推察もなされ得るが資料はみいだせない。しかし、明治十二年というのは間違いですくなくとも東京女子師範附属幼稚園を辞職した十四年以降であると考ええる。今のところ日本で最初の私立幼稚園を芝の近藤幼稚園であるとする石井研堂の説には何一つ根拠がみつからず、この説は誤りであると考ええる。

それにしても、これだけの仕事をした近藤が保育の功労者としての名前もとどめず、誰からも忘れられて晩年を終えたことは余りにもわびしすぎるように思われる。少なくとも我が国で最初の幼稚園保姆で、保育唱歌を作り、竹早教員養成所の最初の教員であった功績を人々に知って貰いたいと切に願うものである。（つづく）

（国立音楽大学）

註(1)明治十六年七月—九月各種学校書類。

二二頁

(2)「東京の幼稚園」東京都 昭和四一 七五頁

(14)田中房子「私立幼稚園の発達」『幼児の教育』第十七卷第

(3)倉橋惣三・新庄よしこ共著「日本幼稚園史」臨川書店

十号

昭和・五 四二九頁

(15)「東京の幼稚園」(前掲書)一四四頁

(4)「読売新聞百年史」読売新聞百年史編集委員会発行 昭和

(16)同右 九一頁

五一参照

(17)明治二十二年 各種学校一

(5)吉野俊彦著「忘れられた元日銀総裁—富田鐵之助伝—」東

(18)「日本幼児保育史」(第一卷) 日本保育学会 フレーベル

洋経済新報社 昭和四九 三六七頁

館 一八二頁

(6)「東京名所図会」(原本 新選東京名所図会) 陸書房 昭

(19)「東京の幼稚園」(前掲書)一五八頁

和・四四 四一頁

(20)同右 一七六頁

(7)吉野俊彦著「忘れられた元日銀総裁」(前掲書) 明治十八

(21)「竹早だより」(前掲書) 八頁

年十一月二十九日の日記 四一〇頁

(22)「芝区誌」芝区役所 昭和三五 第七章 教育 七一—三頁

(8)「竹早だより」創立75周年記念誌(第五号) 竹早教育養成

(23)「東京府史」行政篇 第五卷「東京府発行 昭和十二年

所 昭和三八・十二頁

三八四頁

(9)明治二十一年 各種学校八(公文書館在)

☆訪問およびご指導頂いた方(敬称略)

(10)「教員養成九十年」竹早学園 昭和五四年

長巖寺 専福寺 岳蓮社 増上寺 竹早教員養成所 東京都

(11)「竹早だより」(前掲書) 三頁

公文書館 港区立みなと図書館 一ツ橋大学図書館 木下一

(12)東京府教育会付属幼稚園保姆講習所の設置願 明治二十一

雄 細谷新治 吉野俊彦

年各種学校八

☆写真掲載 「幼児保育百年の歩み」日本保育学会編 ぎょう

(13)「東京都教育会六十年史」東京都教育会発行 昭和十九年

せい 昭和五六 七五頁